

### 第3回下野市総合計画審議会 会議録

日時 令和7年6月25日(水) 午前10時00分～12時00分  
場所 下野市役所 203会議室  
出席委員 秋山幸男委員、加藤主税委員、金子康法委員、松山裕委員、佐間田香委員、黒川秀一委員、原貞夫委員、中村祐司委員、長岡裕介委員、樺沢修委員、村田直隆委員、川俣一由委員、藤川智子委員、木村千里委員、兒玉和実委員、高橋裕美委員、高山裕介委員、門田行史委員  
欠席委員 諏訪守委員、高田広行委員  
事務局 五月女副市長、伊澤総合政策部長、倉井総務部長、浅香市民生活部長、荻原健康福祉部長、伊澤産業振興部長、長塚都市政策課長(倉持都市建設部長代理)、高山議会事務局長、川嶋会計管理者、米井教育次長  
受託者：ランドブレイン株式会社(以下LB) 2名  
傍聴者 1名

#### 【次第】

1. 開会
2. 副市長あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 議題
  - (1) 第三次下野市総合計画基本構想(案)について
  - (2) 第三次下野市総合計画前期基本計画の作成について
  - (3) 第二期下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総評価及びデジタル田園都市国家構想交付金におけるKPIについて
  - (4) その他
5. 閉会

#### 【開会】

(事務局) ただいまより令和7年度第3回下野市総合計画審議会を開催する。  
この場で、6月1日付で就任した副市長の五月女よりごあいさつ申し上げます。  
〔副市長あいさつ〕

#### 【会長あいさつ】

(事務局) 会長よりごあいさついただく。  
(中村会長) 梅雨最中の猛暑であります。また皆さんお集まりいただき感謝申し上げます。  
昨今の気候変動について、若い世代の人たちの精神面への影響もかなり大きいということで、大変驚いている。個人的にも、年齢が上がるにつれ、確かに気候変動で体調とか気持ちも左右されていると感じている。  
前回審議会から今日まででも、世界的にも依然、いろんな動揺が走っていると思う。考えてみれば中東の世界は1万数千kmも離れていて、我々ここに暮らす者にとっては関係が薄いように思うかもしれない。しかし、実は産油国という側面では、いろんなエネルギー供給の面で直結してくるので、今、物価高で日々の

生活を大変苦勞しながらしのいでいる中、何とかならないかという思いもある。

さて、そういった世情不安の中で、やはり総合計画の重要性も非常に増してきていると一研究者としては感じている。前回会議のご議論と意見反映について、事務局において丁寧に対応し資料作成いただいたと思う。ここは皆様方のご意見が正鵠を得ているということと、行政の方も、積極的に計画の中に盛り込んでいくという流れがあると思っている。これは非常に重要なことで、今日もそれぞれ皆さんが言うてくださるキーワードを総合計画に反映していく、基本構想の中に盛り込んでいくということになる。本会のご議論も大変意義があるし、もしかしたら市長もそういったところを注目されていると思う。そういうようなことで、今日も精一杯進行を務めさせていただきたく、どうかよろしくお願いしたい。

## 【議事】

(事務局)

本日、高田委員、諏訪委員から欠席のご連絡を受けているのでご報告する。

今回から、次期総合計画の具体的な検討や総合戦略の評価に入ることから、関係部長も出席している。

〔関係部長の紹介〕

下野市審議会条例第 16 条により、会長が会議の議長となる。以降の議事進行は中村会長にお願いする。

(中村会長)

本日、委員定数 20 名のうち、18 名、半数以上の委員が出席しているため、審議会条例第 6 条第 2 項の規定により会議成立とする。

本日、傍聴の方がいらっしゃっており、会議の公開についてお諮りする。本会議を公開することで異議はないか。

(委員一同)

<了承>

(中村会長)

続いて本日の会議録署名人を指名する。名簿順で黒川秀一委員、原貞夫委員にお願いする。議題に入る前に事務局より資料の確認をお願いする。

(事務局)

事前送付資料の確認をさせていただく。

〔資料確認〕

### (1) 第三次下野市総合計画基本構想(案)について

(中村会長)

議題(1)第三次下野市総合計画基本構想(案)について、事務局より説明をお願いする。

(事務局)

第三次下野市総合計画基本構想(案)について(資料1・2)

○初めに資料1について、これは総合計画の全体構成を示している。前回審議会では、「序論」部分と基本構想の中の「将来像」についてご審議いただいたが、本日は「基本構想」全体についてご審議を賜りたい。

○続いて資料2をご覧願いたい。まず第1章が下野市の目指す将来像を示す部分で、**1**では前提となる理念として、自治基本条例と市民憲章を載せている。続いて2頁、**2**目指す2つの方向性と将来像として、(1)「誰もが幸せを感じられるまち」と「暮らしたい、働きたいまち」という2つの方向性、そして、下野市の将来像(キャッチフレーズ)を掲げている。ここでは、前回会議の中でいただいたご意見をもとに、事務局で4つの案を挙げさせていただいた。案1は簡潔で誰もが覚えやすくイメージできるものということで、「しあわせ うまれる しもつけし」とした。案2は高度な医療が充実をしている下野市において、ケアをする側にも焦点を当て、支える人をサポートしていくまちということで作成をした。(支え合い しあわせ うまれる 医療のまち しもつけ)案3は本市のプロモーションでも

活用している“しもつけ ぐらし ウツツケ”というフレーズを将来像としても使用したものとなっている。(安全・安心・住めば快適 しもつけぐらし ウツツケ)案4は東の飛鳥の“飛鳥”という言葉と“明日”という言葉を語呂合わせしたものになっている。(すべての人の 明日を照らす 東の飛鳥 下野市) これらは、本日事務局案として提示しており、この中から必ず選ぶということではなく、これらをもとに或いは、また違うフレーズも加えていって作成したキャッチフレーズをこの部分に示したいと考えている。

- 3頁、**3**指標でみるまちづくりについて、計画期間の10年間で達成を目指す指標を設定しており、現行の第二次総合計画と同様としている。同3頁中段、第2章、目標人口として、今年の3月に改定をした下野市人口ビジョンで設定した2035年の人口を目標人口としている。
- 4頁以降、第3章土地利用の方針ということで、市内を4つのゾーンに分け、その中に5種類の拠点と、広域的交流を促進するための2つの軸の設定をしている。また6頁には、土地利用構想図として、4～5頁で説明している要素を図示したものになっている。
- 7頁、第4章施策大綱として、6つの分野、子育て、教育文化、健康福祉、産業、都市環境、地域社会・行財政に分け、それぞれに目標を設定し、目標実現のための方向性を記載している。
- 資料中の青い網掛けの部分は前回の会議意見を踏まえて作成した部分となっている。また、参考資料1に前回の会議でいただいたご意見と対応をまとめており、参考資料2は前回会議で皆様にご審議いただいた意見を踏まえて修正した序論案となる。

(中村会長) 将来像、土地利用ゾーンの考え方や拠点、施策大綱ということで、ご質問、ご意見等お願いしたい。

(佐間田委員) 7頁について、先ず**目標1**若い世代の希望をかなえる・・・の●の文章に、結婚・出産を希望する人が理想をかなえられるような環境づくり・・・とあるが、若い世代の方、皆さんが結婚と出産を希望するとは限らないのではないだろうか。若い世代の方がこの文章に違和感がなければいいが、若い世代の将来の理想とか、結婚・出産に限らない文言にしてはどうかと思った。また、施策の方向性の3番目に良好な生育環境の確保とあるが、主語が不明確だと思った。文言としては間違いないが、こういった表現で大丈夫なのかどうか。

**目標2**の施策の方向性と**目標3**に、「いつまでも」という文言があるが、個人的には少し気になった。例えば**目標2**については、いつまでもスポーツに親しめる環境整備・・・というところを、例えば「生涯を通じて」とでもした方がいいのか、それとも、「いつまでも」の方が馴染むと思うのか、皆さんのご意見をお伺いしたい。**目標3**のほうは、逆に健康でない人(病気を抱えた方)は支えてくれないということなのか、そういう人も支えて欲しいと感じた。ウェルビーイングという意味合があればいいだろうが、皆さんのご意見を聞いてみたいと思った。

(児玉委員) どういった人達をケアしていく、心配りをしていくかという話だと思うが、計画期間の目標人口57,000人うち、生産年齢人口はどの位で、高齢人口がどれ位で、さらに子どもの人口はというところを設定していくと、誰を大事にするのかみたいな話がおそらく明確になってくると思う。極端に言うと57,000人になるのは高齢者がいなくなって減っていくという感じだと思うが、それより若い人を増やしたいのだったら、高齢者はもっと居なくなってもらわなきゃ困るかもしれない。少々冷たい話をすると、病気の人はいもうそんなにケアしなくていいみたいな話にもなってくるが、そのののところをもっときちんと話をして、だからここに

注目してこうやるというストーリーにした方がいいと思った。

(中村会長)

将来人口の方から見ていった方がいいということか。

(児玉委員)

結局、目標人口のところは、今後市がどうなっていきたいかという部分に繋がっていくと思う。個人ベースか、全体から見るかみたいな話で方向が変わってくるのではないかな。

(中村会長)

この目標1の意図するところは、いわゆる子育て世代ということではないか。

(児玉委員)

その中でどういう人たちを今後増やしていくのか減らしていくのか。そのためにはどういう人を呼び込んで、こういう施策が必要だという話になってくると思う。子育てするには子どもが生まれてこなければならなくて、そのために何が必要なのか考えると、必ずしもそれだけが人生ではないが、いずれにしても子どもを産む若い人達が居ないと成立しないことなので、そこをどう考えるかだと思う。

(佐間田委員)

高橋委員や高山委員や門田委員から如何だろうか。

(高橋委員)

私としては引かかる。私は結婚してから10年間子どもがいなかったが、その後欲しいと思うようになった。そこは、パーソナルな、内面の気持ちの変化であって、行政がどうか、そういう外的要因は一切なかったと思う。すべての人が、結婚したから子どもが欲しいと思うわけでもないし、そもそも結婚したいと思わない人も多いし、さらには、異性愛者ではないとか、体のつくりで産むことができないとか、いろんな方がいるので本当に難しいところだと思う。

(高山委員)

自身が20代後半に差し掛かってきて、この目標を見たとき、結婚とか出産を希望する人というのは全員ではないだろうとは強く感じた。周りを見ても、それを強く望んでいると言われると、そうでもない気もしていて、何か息苦しさとか、息詰まりの方を感じている。そこが掲げられる以前に、先ず自分自身がここでどう過ごしていけるのか、暮らしていけるのか、ここで生きていくことを想像することの方が先に来ると思っていて、ここで暮らしていく理由のひとつとして仕事とか、自分が希望できるような雇用環境があった上で、結婚とか、出産・子育てっていうところに目を向けられるようになってくると思う。一目には急に結婚出産に飛んでしまっているように感じた。

(門田委員)

計画書の流れを合わせて考えると、例えば目標人口とか市民全体とか、暮らしたい、働きたいとか、その辺と併せて考えると、先ほどもあったように、生産年齢人口を増やさないと、なかなか自治体として成り立たないというのは、どの方も同意だと思う。そうして子どもが増えていけば、確かに生産年齢人口は10年、20年後に増えていく。ただその一方で、私も10年、20年後高齢者になってきたときでも、今の社会よりも、もっともっと働けるような環境を作るというのも必要で、どちらも必要という点でみれば、目標1は人を大切にすることだと思う。人を大切にすることによって子育てする人、しない方も含めて、あと高齢者の方も含めてどんな方にもやさしいまちづくりである方がいいのではないかな。

あと、この資料全体を見て思うに、おそらく下野市だけでできることは少ないのではないかな。他の市あるいは他国との連携とか、1つの市町、1つの地区だけで何かができる程、今の世の中単純ではない。また、いろんな考え方の人達にも入っていただかないといけないと思う。この資料の文面は、下野市だけでいろんなことを頑張りましょうというような構成になっているのが気になった。

子育てについては、当然、子育てに優しいまちづくりはした方がいいと思う。

ただ、それ以外の部分も含めていかないと生産年齢人口は増えていかないだろう。その辺も踏まえて目標1をどのようにするかっていうことはあってもいいかと思う。

(中村会長) 先ほど説明に(土地利用構想)広域連携軸の設定というような内容があったが、この中にも、そういったような広域連携的な考えもぜひ盛り込んで欲しい。

(藤川委員) 下野市のコミュニティセンターで、育児サロンなどの運営に携わっている。参加されるお母さん方は大体35歳以上。去年の出産年齢でみると、第一子の出産年齢は30歳ぐらいで、この5年程変わっていない。そこから合計特殊出生率も低下しているが、このところ35~45歳ぐらいまでのいわゆる高齢期出産と言われる層の出産数は上がってきていると思う。ここは、若い世代に特化するよりは、子育てしたい人のためのやさしいまち、みたいな感じの目標を設定した方がいいかと思う。若い人たちが希望を持って暮らせるまちみたいな目標は別な形で出せばいいと思った。

子育て環境としてみると、下野市はすごく恵まれていて、いいと思っている。人口5万人規模の自治体に小児科クリニックが4軒あるし、そういった面でみんなここに暮らしているように思う。住宅の面積的にも、広いお部屋が借りられるということで、下野市を選んでいらっしゃる方もいる。そういったことも目標の中でもっともっとPRできるようにした方がいいのではないか。

(佐間田委員) 意見を頂戴してきて、今思ったのは、若い世代の希望をかなえるという意味ではなく、共同で子育てを支えるとか、市民みんなで子育てを支えるみたいにしたら、両方包括できるのではないかな。

(木村委員) いつまでも、という言葉に関してはおそらく年齢のような時間軸だけではないと思う。物質的なもの、だからどの場所に行っても、ということも言えるのではないかな。もともと下野市は旧3町の合併で成立しているので、(旧町)それぞれスポーツ施設がある。それぞれの地域に住んでいる方が、どの場所に行ってもスポーツができる、スポーツに親しめるということで、いつまでもと解釈した方がいいのではないかなと思った。

健康のところの「いつまでも」に関しては、健康というのは誰でも望んでいることであるが、本当に健康な人というのは個人的にいないと思っている。逆に言ったら、何か1つは病気を持っている、或いは欠点があるものだろう。だからこそ、健康に向かっていく姿勢、あるいは健康の大切さというものを実感していこう、作り上げていこうというような意思と、みんなで力を合わせてやっていきましょうというスタンスが大事なのではないかな。行政の方で健康にきなさいというのではなく、私たち市民が抱えている悩み、心のケアも身体的なことも含めて、常日頃自分が、今日よりも明日、明日より明後日、生き生きとした生活を送りたい、そういう考え方を持っていることが「いつまでも」というところに繋がっていくように解釈している。

(中村会長) 第1章、2(2)将来像についてもご意見いただきたい。

(佐間田委員) 前回審議会で案1の関係で提案させていただいたが、それにウツツケもくっつけたらいいのではないだろうかと思った。「・・・しもつけ あなたに ウツツケ」にしたらどうだろうか。

(児玉委員) 案1がいいと思った。非常にシンプルかつ、うまれるっていうのが何か新しいことが出てくる感じがとてもして未来感があると思った。あとは全部ひらがながいいのか漢字を入れた方がいいのかということはあると思う。あまりいろいろ

入れてしまうと少しぼやけたり、また、例えば医療というワードが入ってしまうとそこにフォーカスされ過ぎる気がする。

(金子委員) 2頁の②(1)の誰もが幸せを感じられるまちについて、これは非常にいいワードだと思うが、3頁の③の中に、幸せだと感じている市民の割合とあって、その目標値が80%になっているが、後の20%の意味合いは何なのかと思った。あとその次の(2)将来像の設定について、だれ一人とり残されることなく、という部分に違和感がある。ここを除いて、2つの方向性を踏まえて、地域に誇りと愛着を感じて・・としても、言葉としては何ら違和感ないような気もする。誰が取り残すのか、市が何か頑張れば取り残さないで済むのか、そういうことでは決していないと思う。この辺が余りにも広げすぎているような感じがしている。あと目標人口について、先ほど57,000人という話があったが、この辺の値はどう設定されたものか、また、2060年で52,035人とか、そんな細かい数字まで出す必要があるのかどうか。

(児玉委員) 誰ひとり取り残されることなく、というのはすごくいいと思う。行政としての覚悟が表れていると思うが、それをどういった数値目標でとらえるのか考えた時に、100%というのもあり得ないと思うので、統計的にはほぼ100%と同等のような、何か理屈を考えて、例えば80%で誰ひとり取り残されることのない状態みたいなところをもっていければいいと思った。誰ひとり取り残されることなくという文言は取らない方がいいのではないかな。

(中村会長) 案2の支え合いというのをひらがなにして案1の最初に入れてもいいのではないかな。「ささえあい しあわせ うまれる しもつけし」支え合うことによってというのも個人的には大事だと思った。今日限りで決定はしないので、また何かあれば次回以降ご意見いただきたい。次の第3章のあたりは如何だろうか。

(村田委員) 4頁に記載の【拠点と軸】の設定について、産業に関わる文言が見られないが、必要ないのだろうか。

(総合政策部長) 今回の基本構想としては、「ゾーニング」という概念で面的に企業などを誘致していくという考え方で、産業については個別的に「拠点」という概念では示さず、ゾーニングをして既存の産業団地とともに、新たに産業団地を整備していきたいと考えている。

## (2) 第三次下野市総合計画前期基本計画の構成について

(中村会長) 議題(2)第三次下野市総合計画前期基本計画の構成について、事務局より説明をお願いします。

(事務局(LB)) 第三次下野市総合計画前期基本計画の構成について(資料3)

○次回審議会以降、本日も審議いただいている基本構想の実現に向けて、具体的な施策事業をまとめた基本計画という部分をお示ししていく予定になっているので、少しどういった内容が記載されていく予定なのか資料3でご確認いただきたい。

○期間については、第三次総合計画期間の10年間で前期・後期に分け、前期の5年間でまずは示していく。

○施策体系については、基本構想に示した施策大綱をもとに6つの目標を軸に具体的な内容を示していく。

○基本計画の記載内容としては、6つの目標ごとに、複数の施策分野というものを位置付け、その施策分野ごとに現状課題、方針、目標指標、市民満足度、具体施策について示す。

○最後に重点戦略ということで、第三期の総合戦略の取組を前期基本計画の重点戦略と位置

付けて総合戦略と連携して取り組むものとしている。

(中村会長) 内容的には次回以降で願います。

(3) 第三次下野市まちひとしごと創生総合戦略の総評価及びデジタル田園都市国家構想交付金におけるKPIについて

(中村会長) 議題(3)第三次下野市まちひとしごと創生総合戦略の総評価及びデジタル田園都市国家構想交付金におけるKPIについて、事務局より説明をお願いします。

(事務局) (資料4-1、2、3)

- この総合戦略は、地方自治体がまち・ひと・しごと創生法に基づき、総合戦略の基本目標を定め、基本目標の数値目標、具体的な施策に係るKPIという指標により、毎年度進捗管理をすることとされている。
- 先ず資料4-1について、対象の42項目のうち、令和6年度実績における年度目標に対する進捗状況について、Aの達成度100%以上が22項目、Bの達成度80%以上が13項目、Cの達成度80%未満が6項目、Dの達成度50%未満が1項目となっている。達成度80%以上のA、B評価の合計が35項目で全体の83.3%になり、概ね良好な結果であると捉えている。
- 資料4-2の分析シートについて、項目ごとの取り組みの成果と令和6年度実績値の分析、さらに今後の取り組みの詳細について記載しているものになる。今回は、現在進めている次期総合戦略におけるKPIに反映するため、現計画期間における総合評価についてもあわせて行っている。
- 移住定住に関する施策としては、5、6頁にある移住相談件数、さらに定住促進住宅新築等補助件数など、目標値を概ね達成できている状況ではあるが、5頁に記載している通り、各転入者数については、目標達成が非常に厳しい状況となっている。
- しかしながら、令和6年の住民基本台帳年報では転入超過となっており、今後も転入超過を維持することが今後の施策として重要だと考えられる。
- 出生数の増加に向けた施策としては9頁以降になる。先日栃木県内の出生数が過去最小であったと新聞報道等があった。9頁上段にあるように、本市においても令和5年度の出生数は直近5年間で最低数となっており、出生数は減少傾向にある状況となっている。こうした中、本市施策として、不妊治療への助成を行っており、不妊治療助成件数は令和4年度より保険適用開始となり、治療を受けやすくなったことから、本市独自の助成制度についても利用者増の状況にある。この施策だけで劇的に変化することはもちろん考えていないが、出生数増加については、国県と一緒に取り組みながら対応して参りたい。
- 産業の振興について、2頁をご覧ください。本市の生産年齢人口については、令和6年10月の報告では県全体と比べて高い割合となっている。そのような中、空き店舗奨励金等活用件数や雇用奨励金活用件数など、市内での起業・就業支援を行っており、これらについても毎年実績を積み上げているところになる。
- また4頁の新規就農者数については、令和6年度実績は目標値を下回るものの、毎年新規就農の実績がある。また令和7年度より新規就農者移住支援補助金制度を創設し、市外から移住し農業に従事する新規就農者に対して家賃の一部を補助する新たな取り組みを始めると、農業従事者の高齢化や担い手不足の解消に取り組んでいる。
- さらに観光などによる市外からの来訪に関しては、道の駅しもつけの利用者数が伸びたことにより、観光客に入込客数も大きく増加した。
- また、7、8頁にあるように、令和6年度の観光協会ホームページ、シティプロモーション

ンサイトへのセッション数は大幅に増加し、花まつりなどのイベント、かんばんなど特産品を中心に本市への関心が高くなっているように見受けられる。これらの特性を生かしながら、本市のプロモーションに取り組み、知ってもらおう来訪してもらうきっかけづくりを進めていく必要があると考えている。

- その他、多くの施策に取り組んでいるが、冒頭の通り、達成度 80%以上の A、B 評価の合計は 35 項目だったが、残りの 7 項目が、C、D 評価となっている。これらの事業に共通しているのが、K P I としては毎年件数を増加させていくと設定するため、社会的要因などにより件数が伸び悩むと達成度が低い結果となってしまっている。これらについては、事業の実施方法の見直すとともに、K P I として適切であったかどうかも含めて、十分検討した上で、次の戦略に反映して参りたいと考えている。
- 資料 4-3 でデジタル田園都市国家構想交付金における K P I について、新しい地方経済生活環境創生交付金の概要を参考資料 3 でまとめている。現在、本市において交付金を活用中の事業が 3 つあり、「若者が活躍する街しもつけ」U ターン促進事業、「市民活動センター事業」、「ペーパーレス会議システムを利用した介護認定審査会運営事業」になる。昨年度事業を実施した介護認定審査会のペーパーレス化については、導入時期が今年 2 月であったことから、本格的な K P I の達成に向けた稼働が今年度からとなっている。

(中村会長) ご質問やご意見あればお願いしたい。

(高橋委員) 児童館の利用者数が令和 5 年から上がっているのは、石橋児童館の改修かと思うがどうなのか。

(健康福祉部長) お見込みのとおりで、多少コロナが明けてイベント等を各児童館もそれなりに再開したということもあり、そういったことも含めて、利用者が伸びてきていると判断している。

(高橋委員) 資料 4-3 に記載の 1 (1) の U ターン促進事業やその次の 2 (1) 市民活動センター支援施設整備事業について、どちらも関連しているのが N P O 法人青二才さんかと思ったが、この 2 つがどうリンクしているのかわかりにくいと思った。どちらも同じ方が指定管理や委託を受けている中で、もう少し 1 と 2 の関連が結びついたら意義を感じられるのではないかと思った。

(総合政策部長) この交付金制度を活用した事業が 3 つあり、おっしゃるとおり、1 と 2 は同じところで事業を行ってもらっているが、事業自体は関連しているものではないので、引き続き支援を事業委託先と指定管理者を活用してこの事業がもっとよりよいものになるように進めていければと考えている。

(児玉委員) 今回、42 項目中大体 8 割以上達成の評価ということだが、先程の幸せを感じる市民の割合のところでは 80% 目標に対して 75% の実績だったが、この指標達成に向けて、こういった K P I とリンクしている必要があると思うが、その辺の検証はされているのか。最後の K G I が成立するために K P I がそれぞれツリー状になっていて、これができたから最後のゴールにつながるという形になるべきだと思う。

(総合政策部長) 総合計画の基本構想に示す幸福度と、本 K P I 達成度との検証という形はとっていない。幸福度の方はアンケート結果に基づくので、直接的に総合戦略の K P I と結びつけるというのはなかなか難しいと思う。ただこの総合戦略としても、こういった K P I を達成することで市民の方が幸せを感じてくださるまちづくりに繋がるものだととらえて、そこに繋がるように戦略を立案し、目標を達成していきたいと考えている。

- (児玉委員) おっしゃるとおりだろうが、やはりそこは、具体的にツリー状に結び付けるべきだと思う。最後の目標があってそれに対して施策はこういうふうにして、その施策に対して細施策があって、それぞれKPIを持っていて、一番下のKPIができたならその上のKPIにつながって、それが全部できたらゴールに達成するというような絵を1回作っておく必要があると思う。KPI全て達成でもゴールに至らなければ、何か施策が足りないという話なので、そこが検証のもとになる。最初から精度が良くなくとも作っていくべきかと思っているし、ぜひお願いしたい。
- (中村会長) 総合戦略のKPIも絡めながら、総合計画とあわせて進捗管理全体をご指摘のようなツリー状に統合するというのは、おそらくかなり厳しいところがあるだろう。ご意見のところの入口みたいなことを示唆しておいて、実際の施策推進の中で検証していくようなところになるか。
- (総合政策部長) 貴重なご意見なので事務局サイドとどういった形にするか検討したい。
- (門田委員) 各指標を関連させていくようなところで、KPIでAだったところは引き続きAを目指し、さらに一層高める際に、リソースの配分変わってきたりとか、ある指標を高めれば高めるほど、逆に低下する要素が現れるとか、連動という意味では、それをツリー状にKPIを設定し直すかどうかとは別に、やはりそういう側面もでてくるのではないか。評価Cのところをどうするかというところで、評価Aのものとか、何かつなげるというのものもあるかもしれない。そういったところも合わせて考えていけば、もっと市民の幸せに繋がっていくのではないか。評価Aが8割あっても幸福度につながっていないという面で、評価Aのところの深掘りというのも大事だと思う。
- (中村会長) KPI同士は単独で並んでいるのではなく実は関連している部分も大きい。評価Aがついたのでこれで終わりというわけではなく、そこからまた新しい見え方が開けてくる。ツリー状にするのは今後の検討かもしれないが、今のご指摘からヒントを得て欲しい。こういった数字から結構大きなところが見えてくる場合がある。まさに今日の子育ての話とか、将来人口をどうするのかということ、KPI自体は本当に数値的にさらっと書いているが、重要な意味合いが隠れているということ。今回は6年度実績だが、次の7年度の実績によっても見え方は変わってくる。石破政権になって地方創生のスタンスも大分変わってきているなかで、次の政権の色による部分も大きい。
- (佐間田委員) 昨今テレビを見ていると、よく移住に関する地方都市の紹介があるが、下野市も移住にはかなり適していると思うが、全く全国メディアには出てこない。マスコミへの売り込みみたいなのは行政としては難しいのかお聞きしたい。もう1点、市民のアンケートとかで大きい商業施設がほしいという意見がよくあるのだが、産業とかは誘致できるのに、そういう商業施設みたいなのは市としては誘致するのは難しいものなのかどうか。
- (総合政策部長) 移住関係について、下野市は住みよさランキングで高評価を得ている。企業誘致についても、立地的に引き合いも非常に多い地区になっている。課題と言うとやはり下野市はどうしても知名度が低いので東の飛鳥プロジェクトということで様々な形でシティプロモーションを展開し、どうか下野市を知ってもらおうということで、積極的に昨年からPRをしてきており、大分浸透してきたと感じている。これからも積極的に展開していきたいと考えている。もう1点のご指摘

で、商業施設の要望が多いというところで、先ず宿泊施設ということで現在ホテルの誘致を考えている。商業施設については法的な関係があり、なかなか難しいところはあるが、今後の実現性も検討している。

(藤川委員) 先日東京の方から講師をお招きしたが、駅に何も無いと言われてしまった。駅周辺で何か購入できる機会を作り、外からお客さんを呼びこむようなことはできないのだろうか。東の飛鳥のキャッチフレーズはよく聞くようになったが、市内に国分寺や薬師寺がある経緯は意外と知られていないと思う。それをもっと PR していけばいいのではないか。物語みたいのを作ってもっと若い人たちに PR してもいいかと思う。

(児玉委員) 企業誘致に関しては書いてあるようだが、スタートアップとかベンチャーとか、或いはホテルがないなら例えば民泊みたいなこと、要は個人で小さなビジネスとかからスタートするようなことに対する何か取組が少ないように思う。折角自治医大があるので、先端医療技術などを一緒に開発するようなベンチャー企業が集まってくるとか、そういうことも何か考えてもいいと思った。

(総合政策部長) 民泊関係は実現していないが、先端医療の関係については、昨年6月に自治医科大学と包括連携協定を結んだところである。実際に大きな連携事業というものはまだ実現していないが、今後、市のまちづくり関係で委員会を設置することにしており、そこに自治医大からも参画をお願いしている。そういった方面で積極的に自治大と連携した形で、医療のまちを目指していきたいと考えている。

(児玉委員) 民泊ということでは、お子さんが出ていって部屋が空いているから貸したいというような方も耳にする。自治医大も近いし、出張にこられた方々が泊まることもできるかと思う。その辺りも気にかけていただければと思う。

(加藤委員) スタートアップというと、工学系とか技術系とかそういうふうなものが中心になっていたようなところもあるが、大学の中でも、そういうふうな視点も要るのではないかと、考えていったらいいというような意見はある。ただ足元ではやはり医療系や創薬系とかそういうようなものがこれからのターゲットというか、期待できる部分だというような声もあるので、国でもそういう分野に対して積極的に資金投入をしている状況もあるので、そうした動きを本学としても取り入れていきたいと思う。下野市のニーズも踏まえつつ大学の中での議論も深めていきたいと思っている。

(村田委員) スタートアップの視点はすごく重要かと思う。近隣では、宇都宮市が宇都宮ベンチャーズのインキュベーション施設というのを積極的に展開しているし、補助金含め、いろんな支援策もある。先程の医療関係もあるし、農業のスマート化もしくは大規模化の面でも、スタートアップ企業はたくさんある。そういう方々が事業を始めやすい環境を提供することはすごく重要だと思う。今、スタートアップで足りないのは資金と物理的な場所とかの物のほうだと思う。10年後に実を付けるようなものになると思うが、そういったこともこの計画の中に盛り込んでもいいかと感じた。

(中村会長) 先を見据えて広い視野で書くのであればまさにこの総合計画になるだろう。

(市民生活部長) ご意見として、参考にさせていただく。市内でも民泊の1つ、農泊を運営している吉田村ビレッジがある。国のアグリツーリズムであったり、農泊関係の補助金を活用した民間事業になるが、吉田村ビレッジの開発に向けて、市も間接的な協力をしながらともに進めてきた経緯があるのでここで紹介させていただく。

(木村委員) 資料4-2の4頁、7新規就農者数について、令和6年はC評価となっている。

評価の計算上はCになるのだろうが、ここはCとかBとかの評価ではなく、実際に7人成果があったという絶対値のままでもいいのではないだろうか。もともと下野市は農業が主産業なのに、その評価が下がるようなものを出す必要はないと感じた。

(中村会長) このK P Iというのは国から枠をはめられている部分があって、無理くりの評価を出していかなければならない部分がある。ただ先ほどあったように、K P Iとしてふさわしくない指標もあると思うので見直す必要はあるだろう。

下野市は、自治体としての存続が難しいとか、役所の周辺に人を集めていかないとなかなかインフラ整備が進まないとか、そういったまちではなく比較的豊かなところだと思う。結構キラキラしている面もありつつ、ただ、顕在化できていないところの問題もあると思う。そういったところの安心・安全・幸せを支え合っていてきつつ、ちょっと一緒に難しい問題にも少し入っていけるきっかけを作ること総合計画で非常に重要な役割になるだろう。

予定時間一杯となったようなので本日の審議はここまでとさせていただきます。

#### (4) その他

(事務局) 市長から本審議会の審議の様子を直接拝見したいという要望があり、下野市総合計画審議会条例により、審議会の運営に関し必要な事項は会長が審議会に諮って決めることとなっている。次回以降の審議会に市長がオブザーバー的に同席することについて、委員の皆様にお諮りいただきたい。

(中村会長) 我々としては有難いお話なので問題ないと考えるが、委員の皆様よろしいか。

(委員一同) <了承>

(事務局) 第1回と第2回の議事録について。第1回については修正がなかったため、皆様に最初にお送りした議事録で確定させていただくこととする。第2回については一部修正があったため、修正した議事録を事前にお送りしており、こちらで確定とさせていただきます。中村会長と第1回署名人の秋山委員、金子委員、第2回署名員の松山委員、佐間田委員には、この後、署名をお願いしたい。また議事録はホームページの方にも掲載させていただく。

次回の審議会は8月6日(水)10時から予定している。

(中村会長) 今日皆さんから本当に貴重なご意見をいただいた。次回、いよいよ中身の具体的な話も入ってくるので、またよろしくをお願いしたい。

#### 【閉会】

(事務局) 以上をもって第3回下野市総合計画審議会を閉会する。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する

会長 \_\_\_\_\_

署名委員 \_\_\_\_\_

署名委員 \_\_\_\_\_